

アクティブラーニングによる看護技術の習得を目指して

—養護教諭養成課程における小先生制度の授業自己評価から—

小川 真由子・引田 郁美

要旨

健康問題の多様化や社会背景の変化に伴って養護教諭に求められる看護能力が高まる中で、養成教育課程における看護学の授業の質を上げることが必須となっている。大学教育における教育方法の改革が進められる中で、本学ではアクティブラーニングによる授業形態によって看護技術の習得を目指している。そこで本稿では、2016年度前期に行った「看護学実習Ⅰ」における小先生制度の授業において、リフレクションシートの授業自己評価をまとめ、自由記載の分析から考察を加え検討することで、今後の養護教諭養成課程における看護学実習のあり方についての検討を目的とした。アクティブラーニングを実質化する「7つの原則」に沿って考察した結果、その効果を上げるための学生個々の学習を促進する働きかけの重要性が明らかとなった。授業への十分な準備ができたグループの担当学生は自己評価が高く、個々においてうまく知識や技術を落とし込めていない学生は自己評価が低い結果として表れていた。それらに加えてグループでの役割分担や協力する姿勢などが影響していると考えられ、うまくリーダーシップを発揮し共同作業ができたグループは評価が高い結果となっていた。一方、グループ内の学生同士の履修科目状況によっては、お互いの時間を合わせる事が難しくなる場合や、他の科目における課題などによって時間を割くことが難しくなることなどが問題点としてあげられた。今後の課題として、この授業における絶対的な評価に関してどのような方法が望ましいのかについて検討していく必要が示唆された。

キーワード：養護教諭養成課程，看護学実習，小先生制度，アクティブラーニング，
授業自己評価

1. はじめに

養護教諭に求められる資質において、小倉¹⁾は①学校救急看護、②集団の健康管理、③教育保健における独自の専門的機能の統合が重要であると述べている。養護教諭は学校における唯一の医学的・看護学的知識をもった専門職であり、その知識・技術の習得は養成課程において重要視される領域のひとつである。筆者ら²⁾が現職の養護教諭を対象に行った先行研究においては、養成課程で学んだことのある看護技術について、実施する自信が高いという結果であった。このほかにも、養護教諭の看護技術においては就職後の経験があるにも関わらず、対処の自信は低く、多くの現職の養護教諭は養成課程において学習が必要と感じていることが福田ら³⁾の研究で明らかにされている。これらのことから、看護学的領域において幅広い対応力のあ

る資質を学生の身につけさせるためには、質の高い授業内容である必要があると考える。

また、教育方法の改革がなされる中で、大学教育においても授業方法の工夫や学生による授業アンケートの実施、公開授業、シラバスの充実化などさまざまな取り組みがなされている⁴⁾。2008年12月に出了れた中央教育審議会の答申「学士課程教育の構築に向けて」の中で、課題探求・問題解決などの能力を獲得するためには双方向型の授業が不可欠とし、学生の主体的・能動的な学びを引き出す教授法の必要性を強調している。本学では、これらの流れを受けてアクティブラーニングの導入や、学生の学習意欲を引き出す授業への工夫を行い、研修会などを開いている。また、養護教諭養成における看護学実習の授業においても、知識と技術の習得をより効果的なものにするために、学生が主体となって授業経営を行う「小先生制度」の取り組みを2004年度から行っている⁵⁾。山地⁶⁾が述べるようにアクティブラーニングには多様な形態があり、学習の到達目標などに沿って工夫を凝らすことが非常に重要である。しかしながら、学生の基礎的な学習能力、コミュニケーション力やプレゼンテーション力などは個人によって差があり、授業の工夫における効果を検証することは今後の授業構成にとって有効であると考ええる。そこで本稿では、2016年度前期に行った「看護学実習Ⅰ」における小先生制度の授業において、リフレクションシートの授業自己評価をまとめ、自由記載の分析から考察を加え検討することで、今後の養護教諭養成課程における看護学実習のあり方を考えることを目的とする。

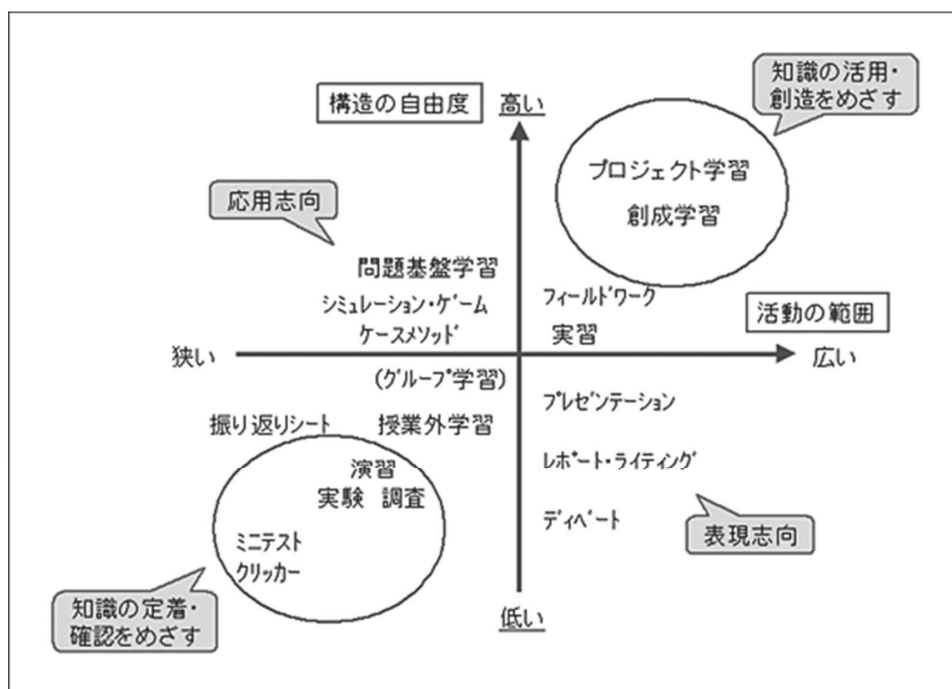


図1 アクティブラーニングの多様な形態（山地⁶⁾から引用）

2. 本学における看護学の履修形態について

教育職員免許法施行規則第9条では、短期大学部における養護教諭養成課程の養護に関する

専門教育科目としての看護学は10単位の位置づけがなされている。本学においては、1年次に講義科目として看護学ⅠとⅡ、および演習科目として看護学実習ⅠとⅡに分け、学校看護に必要な看護技術と知識を習得させる。それらを履修したうえで、医療機関での病院実習を2週間行い、得た知識や技術の再確認や2年次に向けての課題探求の場とすることとしている。

また先にも述べたが、本学では看護学実習の授業において「小先生制度」の導入を2004年から行っている。小先生制度とは、学生が先生役を担い、学生同士で指導していくというものである。このことは実習技術を教員から習得するだけでなく、学生自らがグループで事前学習を行い、グループでの発表やデモンストレーションを行うことにより、学生中心の発表や学生らしい工夫を凝らした授業が学生の楽しみとなるだけでなく、集団活動を活かしながら学ぶことができるようになるといった特徴がある⁵⁾。

2.1. 看護学実習での取り組み

2.1.1. 授業内容

2016年度における看護学実習Ⅰの内容を表1に示す。受講生19名を3～4名ずつ5グループに分け、小先生形式の授業を2回ずつ担当させた。

表1 授業内容とその形式

週	授業内容	授業形式（小先生担当グループ）
第1週	オリエンテーション、病院実習について	講義
第2週	フィジカルアセスメント、バイタルサイン	講義、演習
第3週	実技①バイタルサイン	演習、確認テスト
第4週	ベッドメイキング	演習・小先生（1グループ）
第5週	実技②ベッドメイキング、筆記テスト①	演習・確認テスト
第6週	包帯法	演習・小先生（2グループ）
第7週	感染予防、実技③包帯法	演習・小先生（3グループ）
第8週	三角巾	演習・小先生（4グループ）
第9週	移動・移乗・松葉杖	演習・小先生（5グループ）
第10週	安楽な体位、巻法、実技④三角巾	演習・小先生（1グループ）
第11週	食事介助、経管栄養の介助・吸引	演習・小先生（2グループ）
第12週	排泄介助、自己導尿・吸入	演習・小先生（3グループ）
第13週	全身清拭、衛生材料	演習・小先生（4グループ）
第14週	服薬・自己注射・抑制	演習・小先生（5グループ）
第15週	医療的ケア、筆記テスト②	講義、確認テスト

2.1.2. 小先生形式の授業

小先生の授業実施に向けて、グループごとに表2のようなモデルを示し、準備を進めるよう、第1週のオリエンテーション時に指導した。約2週間前よりグループメンバー全員がそろって授業計画について授業内容や学習のめあての確認、資料作成に向けての要点などについて担当教員に指導を仰ぐ。それらをもとに主に資料作りを進め、具体的な授業構成のイメージを作り上げていく。そして、約1週間前には作成した資料を担当教員に確認してもらい、修正や追加事項の指導を受けるとともに、実技指導を受け、その後は各自で練習を行い、授業当日に向けて資料の印刷や準備物等を揃える。授業を実施した後はリフレクションシートに記入し、片付けまで行うこととした。このリフレクションシートについては、理解度に関する5段階の自己評価の点数と、自由記述から構成されている。理解度については、授業のめあてに則して項目ごとに点数化するものとする。この自由記述について、小先生の担当グループは授業を実施したことに対して、また授業を受けた担当以外の受講生は小先生の授業内容についての内容を記入するものとした。

表2 小先生授業担当に向けての準備

2週間前	授業計画	授業内容、学習のめあての確認、資料作成に向けての準備
1週間前	実技練習	授業資料の確認、役割分担、実技練習
当日	実施	授業資料印刷、板書、準備物の用意、授業実施、リフレクションシート記入、後片付け

3. 結果

3.1. 理解度に関する自己評価について

3.1.1. 担当学生と受講学生における自己評価平均の比較

小先生を担当させた10回分の授業内容についての授業評価について、「まったく理解できなかった」を1点、「やや理解できた」を2点、「ふつう」を3点、「ほぼ理解できた」を4点、「完璧に理解できた」を5点として項目ごとに自己評価させた。小先生の担当学生の平均点と、受講学生の平均点を表3に示す。

担当学生の方が受講学生よりも理解度に関する自己評価の平均点が高かった授業内容は、10回の授業のうち、「ベッドメイキング」、「包帯法」、「三角巾」、「移動・移乗」、「電法」、「自己注射・投薬」の6回であった。「感染症」、「食事介助・吸引吸入」、「全身清拭」、「排泄介助」の4回に関しては担当学生の方が受講学生よりも自己評価の平均点が低かった。

表3 理解度に関する担当学生と受講学生の自己評価平均点

週	第4週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週
授業内容	ベッドメイキング	包帯法	感染症	三角巾	移乗・移動	電法	食事介助・吸引吸入	全身清拭	排泄介助・沐浴介助	自己注射・投薬
担当学生	5.00	4.31	3.58	4.83	4.68	4.67	3.69	4.25	3.95	4.88
受講学生	4.41	4.13	3.94	4.18	4.00	4.23	3.92	4.34	4.35	4.14

3.1.2. 個人別自己評価平均点

個人別の自己評価平均点を表4に示す。2回担当した小先生の週の自己評価平均点において、10回分の平均点よりも高かった学生が半数以上であった。

授業内容において、最も自己評価平均点が高かったのは「ベッドメイキング」であり、最も低かったのは「食事介助・吸引吸入」であった。

表4 個人別自己評価平均点

週	第4週	第6週	第7週	第8週	第9週	第10週	第11週	第12週	第13週	第14週	平均
授業内容	ベッドメイキング	包帯法	感染症	三角巾	移乗・移動	電法	食事介助・吸引吸入	全身清拭	排泄介助・沐浴介助	自己注射・投薬	
1	5.00	3.22	3.50	2.44	2.90	4.00	3.25	3.25	3.80	3.67	3.50
2	5.00	4.33	3.50	4.22	3.10	5.00	2.25	3.50	3.80	3.83	3.85
3	5.00	4.44	5.00	4.33	5.00	5.00	4.00	5.00	5.00	5.00	4.78
4	4.33	4.89	4.33	4.89	4.70	4.80	4.75	5.00	5.00	4.83	4.75
5	4.00	3.22	3.33	2.00	3.00	2.90	2.00	3.00	3.40	3.83	3.07
6	5.00	4.22	2.83	3.11	4.00	2.00	4.00	4.00	4.00	3.67	3.68
7	3.33	4.89	4.00	4.89	4.60	4.60	4.00	4.75	4.80	4.50	4.44
8	5.00	4.89	4.00	4.56	4.90	4.90	3.75	4.75	4.60	4.83	4.62
9	4.83	4.44	2.33	5.00	4.10	4.80	4.00		4.20	3.83	4.17
10	4.83	4.22	4.83	4.67	4.80	4.80	4.50	5.00	5.00	4.33	4.70
11	4.17	3.78	3.17	4.00	3.60	3.50	3.75	4.25	4.00	3.83	3.80
12	3.50	4.22	4.33	4.89	4.40	3.90	4.50	3.75	4.20	4.67	4.24
13	4.67	3.67	3.83	4.67	4.20	4.00	4.00	4.25	4.00	4.00	4.13
14	4.50	3.22	3.67	4.78	3.30		4.00	4.00	3.80	3.33	3.84
15	3.50	4.44	3.83	5.00	3.40	4.80	3.25	5.00	3.80	4.00	4.10
16	5.00	4.11	3.50	4.11	4.80	4.40	4.00	4.50	4.40	4.50	4.33
17	4.67	4.67	5.00	4.67	4.90	5.00	5.00	5.00	5.00	5.00	4.89
18	4.83	4.11	4.17	4.78	5.00	4.70	4.50	4.75	4.80	5.00	4.66
19	4.33	4.11	4.33	5.00	4.00↓	4.40	4.00	4.00	4.00	5.00	4.35
平均	4.50	4.16	3.87	4.32	4.15	4.31	3.87	4.32	4.29	4.30	4.21
		※	は、小先生担当週。			※※	は、欠席を示す。				

3.1.3. 項目別自己評価平均点

授業内容ごとの学習のめあてに対する自己評価平均点を表5に示す。最も自己評価平均が高かった項目は「第6週 包帯法—環行帯をうまく巻くことができる」の4.79点であった。また、最も低かった項目は「第11週 食事介助・経管栄養—経管栄養について理解できる」の2.74点であり、他のどの項目よりも著しく低い結果となった。

表5 学習のめあて項目別自己評価平均点

第4週 ベッドメイキング		第10週 いろいろな体位、嚥法	
ベッドメイキングの意義を理解できる	4.58	安楽な体位の意味について理解できる	4.39
ホディメカニクスについて理解でき、実行できる	4.53	仰臥位について理解できる	4.39
シーツのたたみ方とその順序について理解できる	4.68	側臥位について理解できる	4.39
三角コーナーの意味を理解し、うまく作れる	4.47	腹臥位について理解できる	4.33
四角コーナーの意味を理解し、うまく作れる	4.26	ファーラー位について理解できる	4.33
しわなくシーツを敷くことが出来る	4.47	起座位について理解できる	4.22
		ショック位、回復体位について理解できる	4.33
第6週 包帯法		嚥法の意味について理解できる	4.06
環行帯をうまく巻くことができる	4.79	冷電法を実行できる	4.33
螺旋帯をうまく巻くことができる	4.53	温電法を実行できる	4.28
蛇行帯をうまく巻くことができる	4.53		
折転帯をうまく巻くことができる	3.68	第11週 食事介助・経管栄養	
反復帯をうまく巻くことができる	3.63	食事介助の意義や役割を理解できる	4.26
亀甲帯をうまく巻くことが出来る	3.74	片麻痺の患者への食事介助について理解できる	4.21
麦穂帯をうまく巻くことができる	3.74	視力障がい患者への食事介助について理解し、実行できる	4.16
ネット包帯について理解できる	4.42	経管栄養について理解できる	2.74
ストッキング包帯法について理解できる	4.42		
		第12週 清潔の保持	
第7週 感染予防		清潔保持の目的や意味を理解することができる	4.22
感染について理解できる	3.53	嚥交換や洗髪の手順、注意点を理解することができる	4.22
感染経路について理解できる	3.58	手浴・足浴の準備ができ、安全に実施することができる	4.44
学校での感染症について理解できる	3.53	全身清拭について理解することができる	4.39
感染予防について理解ができる	3.79		
手洗いの重要性について理解できる	4.42	第13週 排泄の介助・沐浴	
衛生的手洗いの技術を実行できる	4.37	排泄の目的や意味を理解することができる	4.37
		患者に不快感を与えずに排泄介助を実施することができる	4.16
第8週 三角巾		排泄介助における注意点を理解することができる	4.16
三角巾の役割について理解できる	4.26	沐浴について準備から実施まで理解し、実施することができる	4.47
たたみ方、四つ折り、八つ折りがうまくできる	4.68	沐浴の目的や意義を理解でき、注意点をのべることができる	4.32
本結びをうまくできる	4.37		
頭部保護をうまくできる	4.37	第14週	
前腕保護をうまくできる	4.21	自己血糖の示す意味と測定方法について理解できる	4.56
鎖骨骨折の保護をうまくできる	4.26	インスリン自己注射の意味と使用方法などの注意点について理解できる	4.28
手背保護をうまくできる	4.32	糖尿病の病態機序と血糖コントロールについて理解できる	4.33
肩脱臼の保護をうまくできる	4.00	服薬方法の種類とその違いを理解できる	4.22
足首捻挫の保護をうまくできる	4.37	アナフィラキシーについての理解ができる	4.22
		エビペンの使用について理解でき、正しく指導することができる	4.39
第9週 車椅子の移乗・移動・松葉杖			
体位変換の技術を実行できる	3.79		
車椅子への移乗ができる	3.84		
車椅子の移乗の注意点について理解できる	3.89		
車椅子による移動の注意点について理解できる	4.05		
車椅子による移動ができる	4.32		
松葉杖の正しい使い方について理解できる	4.32		
松葉杖の階段昇降における注意点を理解することができる	4.42		
ストレッチャーへの移乗ができる	4.42		
担架の正しい方を理解できる	4.16		
ストレッチャーや担架移送における注意点を理解することができる	4.21		

4. 考察

理解度に関する自己評価について、担当学生の方が受講学生よりも理解度に関する平均点が高かった授業内容は、「ベッドメイキング」、「包帯法」、「三角巾」、「移動・移乗」、「嚥法」、「自己注射・投薬」の6回であった。授業内容においては、実技が中心となる基礎的な看護技術のものであり、結果が表れやすく習得した実感が高かったと考える。「ベッドメイキング」に関しては、小先生第1回目であったにも関わらず、学生が授業準備に時間をかけ、実技の練習を繰り返して行ったことが、担当学生の自己評価が唯一満点の5.00点だったことにつながったと予測される。リフレクションシートの自由記載からも、受講学生が「しっかり事前の準備ができていてスムーズな進行が良かった」、「説明の間にアドバイスを入れてくれてよかった」、「分からないことがあれば、すぐに対応をしてくれた」などと授業準備への周到さを述べていた。担当学生からは、「自分たちの苦手な分野を担当する挑戦ができてよかった」、「自分のできないところが最後はできるようになり、楽しくできた。さらにみんなができるようになり、笑顔になったことが良かった」などの知識を伝えること、技術の獲得についての満足感などが述べられていた。

一方、「感染症」、「食事介助・吸引吸入」、「全身清拭」、「排泄介助」の4回に関しては担当学

生の方が受講学生よりも自己評価の平均点が低かった。これらの内容において受講学生から、「自信がなさそうに説明していると不安が伝染する」、「どうしてそうなるのか、説明や理由を伝えてほしかった」などと授業の表現の仕方や、知識の曖昧さなどの指摘があった。担当学生からは、「時間配分ができていなかった」、「間違っただ理解をしてしまっていた」などの授業準備の不十分さや理解不足などの要因があげられていた。

アクティブラーニングとは、「思考を活性化する」学習形態のことを指し、実際にやってみて考える、意見を出し合って考える、分かりやすく情報をまとめなおす、応用問題を解くなどいろいろな活動を介してより深く分かるようになることや、よりうまくできるようになることを目指すものである⁷⁾。山地⁶⁾はアクティブラーニングを実質化する「7つの原則」について指摘し、その効果を上げるための学生個々の学習を促進する働きかけの重要性について述べている。

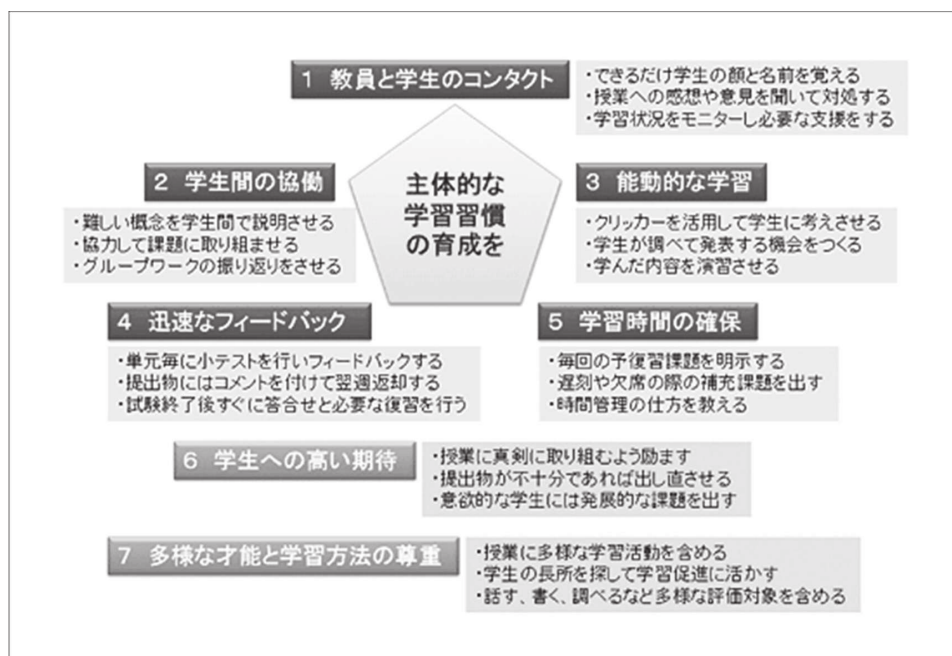


図2 「7つの原則」とそれぞれの工夫例（山地⁶⁾より引用）

看護学実習Ⅰにおける小先生において図2にあげられる「1 教員と学生のコンタクト」に最も時間を費やし、教員としても学生を支援し、準備を進めてきた。しかしながら、自由記載のコメントでも述べられているように、この部分において十分な準備ができたグループの担当学生は自己評価が高く、個々においてうまく知識や技術を落とし込めていない学生は自己評価が低い結果として表れてきていた。それらに加えて「2 学生間の協働」においてはグループでの役割分担や協力する姿勢などが影響していると考えられ、うまくリーダーシップを発揮し共同作業できたグループは自己評価が高い結果となっていた。また、「3 能動的な学習」においては

グループの中での資料作成や自主的な実技練習などがあげられ、受講学生に対しても授業への雰囲気づくりや、分からないことへの声掛けなどによって授業への参加度を促す働きかけとなることが明らかとなった。しかしながら、「5 学習時間の確保」においてはグループ内の学生同士の履修科目状況によっては、お互いの時間を合わせる事が難しくなる場合や、他の科目における課題などによって時間を割くことが難しくなることなどが問題点としてあげられた。

それらの状況を踏まえたうえで、学生の時間調整や授業資料の提示、分かりやすい課題提出など「6 学生への高い期待」や、資料作りのアドバイスや個人の特性にあった役割分担のアドバイス、プレゼンテーション方法の工夫などの「7 多様な才能と学習方法の尊重」においては、指導教員が大きく関与するところであることから、学生の学びを効果的にする授業構成においては重要な部分であると考え、今後の課題としたい。授業に関する自己評価においては点数化してはいるものの、一般的な評価とはならず相対的な評価として扱わざるを得ない部分があり、個人差も大きいことを配慮すべきであろう。また、アクティブラーニングの評価として学修行動調査や学修到達度調査、ルーブリック、学修ポートフォリオ⁸⁾ など、様々な手法があげられる中で、この授業における絶対的な評価に関してどのような方法が望ましいのかについて今後検討していく必要があると考える。

5. 結語

養護教諭養成課程における看護学実習のあり方についての検討を目的に、「看護学実習 I」の授業において、リフレクションシートの授業自己評価をまとめ、自由記載の分析から考察を加え検討した。アクティブラーニングを実質化する「7つの原則」に沿って考察した結果、その効果を上げるための学生個々の学習を促進する働きかけの重要性が明らかとなった。授業への十分な準備ができたグループの担当学生は自己評価が高く、個々においてうまく知識や技術を落とし込めていない学生は自己評価が低い結果として表れてきていた。また、うまくリーダーシップを発揮し共同作業できたグループは評価が高い結果となっていた。今後の課題として、この授業における絶対的な評価に関してどのような方法が望ましいのかについて検討していく必要が示唆された。

引用文献

- 1) 小倉学 (1975) : 『養護教諭—その専門性と機能—』, 東山書房, 125-131.
- 2) 小川真由子ほか (2016) : 現職の養護教諭が認識している包帯法に関する調査—学習経験と現場経験の観点から—, 『養護教諭教育実践科学研究』, 2, 1-11.
- 3) 福田博美ほか (2003) : 教育学部養護教諭養成の看護系科目に対する卒業生の学習ニーズ—, 『学校保健研究』, 45 (4), 331-342.
- 4) 木野茂 (2009) : 教員と学生による双方向型授業—多人数講義系授業のパラダイムの転換を求めて—, 『京都大学高等教育研究』, 15, 1-13.

- 5) 石川拓次ほか (2013) : 看護学実習における経験型実習教育の総括—9年間の経過から—, 『鈴鹿短期大学紀要』, 33, 33-42.
- 6) 山地弘起 (2014) : アクティブラーニングの実質化に向けて, 『JUICE Journal 2014年度』, 1, 2-7.
- 7) 溝上慎一 (2007) : アクティブラーニング導入の実践的課題, 『名古屋高等教育研究』, 7, 269-287.
- 8) 中央教育審議会 (2012) : 新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ～, 20.

筆頭執筆者の所属と連絡先

小川 真由子 所属：鈴鹿大学短期大学部 Email : ogawam@suzuka-jc.ac.jp

The Acquisition of Nursing Technique through Active Learning

From the class self-evaluation of the guide study system in the Yogo-Teacher course

Mayuko Ogawa, Ikumi Hikita

Key Words: the Yogo-Teacher course, nursing science training, the allotment class system, active learning, class self-evaluation

○良かったこと、勉強に思ったこと等

- ・とても良い経験だった
- ・事前の勉強が担当するところよりも勉強できたのでよかった
- ・資料を作ること、教えることがとても大変だとわかった
- ・同じグループの子たちが、わかりやく説明してくれたので初めてした子たちがうまくやっていてよかったと思う
- ・自分自身もわからないところがあった子たちに積極的に教えられたのでよかった

○反省点、こうしたら良かったと思ったこと等

- ・自分自身がしっかり理解できていなかったで、みんなに上手く伝えることが出来なかった
- ・もっと大きな声で言うべきだった
- ・もう少し詳しく簡単な説明とポイントを書けばよかった
- ・三角の作り方は、みんなでできていたんですけど、四角の作り方に苦労していた。
- ・もっと細かく教えてあげればよかった
- ・資料作りが遅くなり、先生の印刷の時間を削ってしまい、反省。早めに動けばよかった



○良かったこと、参考になった点等

- ・進め方が1回目なのに上手だったこと
- ・しっかり事前の準備ができていてスムーズな進行がよかった
- ・DVDの後に、小先生が実践し、その後、一人ひとりに対して近くで教えてくれた
- ・説明の合間にアドバイスを入れてくれたところ
- ・シーツを扱う人と説明する人が別々なので、聞き取りやすかった
- ・みんなに見れるように気を使ってくれてすごよかった
- ・実演がゆっくり丁寧に展開されてよかった
- ・難しい言葉も補足して説明してくれたのでわかりやすかった
- ・シーツを広げるときにどこを目安にして置くと簡単に上げられるかを伝えてくれたことが参考になりました
- ・声はきはきして聞いて聞き取りやすかった
- ・分からないことがあれば、すぐに対応してくれた
- ・個別の指導も優しく教えてくれてよかった
- ・分かりやすい内容だった
- ・○○さん、がんばっていた
- ・分からないときはこっちへ来てわかりやすく教えてくれたので助かった
- ・四角コーナーについては、今回初めて知ったので参考になりました

○わからなかったところ、もっとこうしたら良い等のアドバイス



- ・迷いなく、自分たちでもう少し理解できるともっとよかった
- ・説明と動きがあっていたらさらにわかりやすかった
- ・班の中でやり方が違うことがあったので、揃えてくれるとわかりやすくなる
- ・プリントを読むとき、もう少しみんなの方を見てくれたら嬉しかった
- ・淡々と説明するのではなく、一つずつ言っていたらよかったですかなと思う
- ・一度に全てを説明されると、頭がパンクしそうだった。わけて説明してくれると嬉しかった
- ・プリントの内容と話している内容が、どれのことかわからなかった。折角作成した資料なのでもっと活用ができればよかった
- ・全体の順序が書かれたプリントが欲しかった
- ・スプレッドはなぜ敷くのか、ベッドメイキングがなぜ大切なのかなど基本的な説明がなかったので意義についても説明があるとよかった
- ・ベッドメイキングのやり方はよくわかったけど、どうしてそうするのがわからなかったで、説明があれば嬉しかったです
- ・畳むときにどちらが中なのか、向きはどうなのかを理解するのに時間がかかった。わかりやすく説明してくれるとよかった
- ・シーツをひくとき、もう少し位置などをわかりやすく説明してくれると1発でよかったと思う
- ・中表と外表が少し理解しづらかった。誰でも理解できるような説明をしたらもっとよくなるとおもった
- ・実践で見せてもらうときに、もう少しスムーズな方がよかったかなと思った

看護学実習Ⅰ 三角巾

小先生をやってみてよかった点など

- ・声を大きくさせた
- ・全員が出来ているか見ることができた
- ・完成が綺麗に出来るようにした
- ・説明もポイントも入れたのでよかった
- ・授業を進めることの難しさがわかった
- ・プリントがわかりやすかった
- ・プリントをすごく、上手に作ってくれた
- ・わからない子に教えることができた
- ・わからないところを、みんなが積極的に聞いてくれた
- ・次の項目に入る前に、8つ折りなどをしておいたので、スムーズにできたと思う
- ・小先生として説明する立場になったので、自分がしっかり理解しないとできない。たくさん練習して身についた
- ・途中からみんなが疲れてくるので、そんなときに、どうみんなのテンションをあげるかがミソだと思った
- ・最初は三角巾のやり方に不安があった。みんなそれぞれが役割を理解し、準備できたと思う
- ・自分のできないところが、最後はできるようになり、楽しくできた
- さらに、**みんなができるようになり笑顔になったことがよかった**

小先生のよかったところ

- ・小先生全員が動いていた
- ・みんなが完璧に覚えているのはすごいと思った
- ・ハキハキしていて聞き取りやすかった
- ・他の班の人にも協力してもらっていて見やすかった
- ・見本が2人いたので、どの角度からでもみやすかった
- ・基礎に時間をとってくれて次にするのがスムーズにできた
- ・フォローや班で協力している姿は、「こう声かけをすれば良いのだ」など参考になった
- ・わかりずらくて困っていたら、まわって教えてくれた
- ・冗談交じりの話で明るい空気で授業が受けられた
- ・まだ三角巾をしているときに、「まだやっている人がいるから待って欲しい」と周りを見てくれたのがよかった
- ・一人の人が説明するのに困っていても、他の人がすぐ助けたりお互いに助け合っていてよかった
- ・三角巾の内容は難しいものばかりだったが、わかりやすく説明してくれた
- ・頂点や折り目、三角巾に印をつけたりしているのがとてもよかった
- ・プリントで分かりづらいときに、目の前でやって見せてくれたので、すぐに理解できた
- ・みんながみやすいようにやっている途中も前と後ろの向きを変えたりして工夫をしてくれたところ
- ・資料の最初のページに説明・応用・注意点をまとめてあったので、実技の中でも注意しながらできた
- ・怪我したことをイメージしやすい工夫をしたり、応急処置であることを考えてなどの声かけもよかった
- ・グループで何かをするとき、周りも大切だけど、自分たちの雰囲気も大切にしなければならなかった

小先生をやってみて反省する点など

- ・時間配分を考えればよかった
- ・語彙力が足りなかった
- ・思いやり大切
- ・途中で疲れて説明が雑になってしまった
- ・聞かれても上手に説明ができなかった
- ・説明と実演がずれてしまったので、わかりにくくなってしまった
- ・あやふやになってしまったところがあり、授業をする前に確認すればよかった
- ・ポイントについて、言うのを忘れてたり、間違ったことをいってしまった
- ・授業が始まって時間も見ていなかったことが反省
- ・みんなの表情をあまり見れなかったので、疲れているか飽きているなど、もっと気にしてあげたかった

